第2回岩手県環境審議会中間見直し特別部会 会議録

日 時 令和7年7月28日(月)
10:30~12:00
場 所 盛岡地区合同庁舎8階 講堂A

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 岩手県環境基本計画の中間年見直しについて
 - (2) その他
- 3 閉 会

(出席委員)

岩井光信委員、佐藤美加子委員、渋谷晃太郎委員、丹野高三委員、辻盛生委員

(リモート出席委員)

伊藤歩委員、小野寺真澄委員

(五十音順)

1 開 会

○ 吉田環境生活企画室企画課長

ただいまから、岩手県環境審議会第2回環境基本計画見直し特別部会を開催いたします。

私は、環境生活企画室企画課長の吉田知教と申します。よろしくお願いたします。御出席いただいている委員の皆様は、委員総数7名のうち6名であり、過半数に達していますので、岩手県環境審議会条例第8条第4項の規定により準用される同条例第7条第2項の規定により、会議が成立することを報告申し上げます。

また、岩手県環境審議会運営規程第8条第7項において準用する第3条第1項の規定により公開といたします。

なお、「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づきまして、当審議会にあつては、会議録を公表するまでの間、会議内容を録音した音声情報を、インターネットの県のホームページにて公開することとしておりますので、あらかじめ御了承願います。

それでは、早速議事に入らせていただきます。議事の進行については、審議会条例第8条第4項の規定により準用される同条例省令第3条第2項の規定により、部会長が会議の一応議長を務めることとされておりますので、以降の進行は渋谷部会長にお願

いたします。

○ 渋谷部会長

皆さん、おはようございます。

お暑い中御出席いただきありがとうございます。会議の次第により議事を進めてまいります。本日の会議は12時の終了を予定しておりますので、円滑な議事進行に御協力をお願いします。

それでは、議事の(1)「岩手県環境基本計画の中間年見直しに係る基本的方向について」に移ります。事務局の方から御説明をお願いします。

○ 事務局

【資料No.1、資料No.2、資料3、参考資料説明】

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございました。

それでは、各委員から御意見、御質問を受けたいと思います。まず会場の委員から始めたいと思いますが、各分野で御意見があるかと思しますので、岩井委員から、御質問いただければと思います。よろしくをお願いします。

○ 岩井委員

第3章にあります、森林整備以外の吸収減対策のところ、まず、どういったものを吸収させることを考えていくのかということが気になっています。

この間も、バイオマス研究会やILC研究会の中で、50年伐期の森林の吸収率以上になると吸収しなくなるということが、林野庁で出されているようですが、森林関係の方では、80年伐期でも100年伐期でも木を使って、二酸化炭素が固定され、それを固定化状態にしてCLT材とかに利用出来又木材の利用促進と繋がります。端材、間伐材以外の木を木質バイオマス発電等燃焼に使用すると、森林CO₂吸収が少なくなると思われます。ある事例として、岩手県庁さんにも入っていると思うのですが、自動販売機の中に二酸化炭素の吸収材が入っている自販機等が、最近出てきています、それも二酸化炭素の固定だと思うので、森林以外のどのようなもので、吸収量を算定しているものか疑問な点があります。

○ 事務局

資料3の新旧対照表で御説明させていただければと思います。47ページを御覧ください。

現状、吸収源対策としては、森林整備による吸収源対策を想定していたところですが、こちらのほか、ブルーカーボンやバイオ炭などの森林整備以外のものによる吸収源対策も想定しています。

具体的な施策の方法についても、51 ページの方で、現行の第2次岩手県地球温暖化対策実行計画から、ブルーカーボンについては、記載を引用させていただいてございますが、こちらのものの他、現状の施策の実施状況を踏まえて、バイオ炭施用等による、二酸化炭素削減に向けた取組ということも行っていますので、記載を追加しています。

この他、現在行っている地球温暖化対策実行計画の中間年見直しの状況等を踏まえ、森林整備以外の吸収源対策の中で、環境基本計画に盛り込むべき施策の方向性があれば、追加することを検討してございます。

○ 事務局

補足させていただいてよろしいでしょうか。グリーン社会推進課長の千田と申します。

吸収源対策の関係につきましては、岩手県の中で、吸収源として算定できるもので確たるものとなりますとやはり森林吸収、ということになりますし、量の方も森林吸収がほとんどを占める状況となっております。

国につきましては、海藻・藻場と、いわゆるブルーカーボン、こちらの方も、算定の方法をいろいろ模索しながら、国連に対して報告をしている状況になってございます。

県でも、国が現在進めている算定方法の確立に御協力をさせていただいております。広田湾をモデルケースとして、アマモによる二酸化炭素の貯留量がどのぐらいなのかということ、令和4年、5年に調査をさせていただいております。その結果、年間の二酸化炭素の貯留量につきましては、広田湾のアマモだけを取り上げますと、245トンということになってございまして、森林吸収に比べるととても小さな数字にはなっているのですが、そのような数字が出ております。

今後ブルーカーボンにつきましては、どのような海藻がどのエリアにあるかというようなところを、国の方でも調査を進めていく予定としてございますので、それは調査結果を踏まえた算定式の確立、こちらを待ちながらではございますが、順次判明したところから入れていきたいと思っております。

また、二酸化炭素を固定して土の方に戻すというような取組につきましても、先ほどのバイオ炭などを少しずつ進めているところではございますけれども、具体的な数字というところまではまだ実は算出できない状況になっておりますが、これらが算出できる状況になりましたら、実績の中で入れ込みたいと思います。

いずれにしても様々な取組で、吸収というところも、昨今進んできているところですので、それらの研究成果等を含めて、今後の取組を進めていきたいと思っております。以上です。

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございました。

岩井委員、資料1で意見が反映されているかどうかというのは、大丈夫でしょうか。

○ 岩井委員

そのところで、私も内容の方は、業種別の温室効果ガス排出量具体的な数値だとか、省エネの取組の補助ということについて、今後他部会にて検討にてしていただくということだったので、ぜひやっていただきたいなと思っています。以上です。

○ 事務局

はい。岩井委員からいただいた御意見については、来年度事業ですとか検討する際に参考とさせていただきたいと考えております。

○ 渋谷部会長

はい。お願いします。まだもし何かありましたら。辻委員。

○ 辻委員

はい。申し上げた意見については、いただいた回答で加えていただいたと思います。

今回の改定では、難しいところあるかもしれませんが、全般的に私の場合ですと水環境保全、河川関係、あと生物多様性にも関わる、野生動植物の保全というところも含めてですが、一昔前のパターンをそのまま引きずっているような印象がありまして、公害対策としてやっているので、水環境は既に良くなっているわけですが、それをもっと良くしようという方向性。それは間違っていないと思うのですが、どこまで意味あるのか、という素朴な疑問があるわけです。

あと防災にしても当然その強靱化しなきゃいけない。雨の降り方も変わっていますから、強靱化しなければいけないのですが、それに対して、生物多様性どうなっているって部分がリンクしているように見えない。

あと生物多様性についても、イヌワシと、あとは、ビジターセンターの訪問者数の辺りが指標に掲げられており、それぞれ非常に重要で、続けていくべきものだと思うのですが、それだけではなくて、やはりウェルビーイングやネイチャーポジティブ、自然共生サイトもそういう側面があると思います。

身近な自然をどうやって、再生していくのかというところ、そのあたりがもう少し、なるほどと思えると、より良いなとは思いました。

やはり、環境自体は身近な環境を含めて良くなってきている側面が多々あると思います。それに対して、河川であれば高度経済成長期に、治水の側面で改善して、人の生

活環境というのは守られてきた。

さらに、河川の水質自体も、下水道の不備とかで、悪かったものが下水道は公共下水道管理されることによって、ガラッと改善した側面があります。

そうした中で、身近な自然というものが、ウェルビーイングの観点からもう少し、計画の中身に反映できるようにするにはどうしたらいいか、ということです。

身近な環境をもう少し調べて、改善すべき点があればそれを改善するし、当然その雨の通り道が変わって「防災」という側面でいけば直さなければいけないところは直すのですが、身近な自然を守る観点から、この点についてはこういう改善をすれば自然環境がより豊かになるだろう、などに少し踏み込んだ内容での改善提案というものが中で見えてくると、岩手の自然環境はより良くなるのかなと思いました。

○ 事務局

御指摘ありがとうございます。そうしましたら、現状の中で身近な自然等に対する、そちらの方がちゃんと改善されているのかとか、今回その河川改変に伴って、良好な自然の方も一緒にちゃんと守られているかどうか、今の多自然川づくりとの考え方にも共通しますが、そちらにつきましては、今回、中間見直しの中で、何か反映させられる、指標がないか、改めて確認させていただきまして、場合によっては、次期計画の策定に当たっての宿題とさせていただくことあるかもしれないですが、引き続き、関係部局と連携しながら、より良い指標がないかについては検討させていただきたいと考えております。

○ 辻委員

多自然川づくりの災害復旧に際しても、意識しなければいけないかと思っておりますので、それはもう当たり前としてやるわけですけれども、場所ごとに、環境特性が違いますから、それを広範へ反映できるような事例とかがあれば紹介していただいでですね。

あとは、野生動植物の保全で考えると、イヌワシというキーになる種がいるわけですが、それ以外にも、レッドリストのランクでいくと同等にいるような生物が、住宅地のすぐ脇辺りで生息しているわけです。

そういう岩手ならではの、県外にアピールできるような素晴らしいものが残っている、或いはそれが、失われてしまうようなぎりぎりの線に今いるのかもしれないです。

方向としてはもう少し良くなっていくような方向を見出せるかもしれないし、そういう保全すべき自然が遠いところにあるようなイメージがあるので、身近に豊かな自然がある、という岩手のよさというのを前面に出して、ということは、この計画の中で何かできそうな気がするので、御検討いただければと思います。

○ 事務局

はい。検討させていただきます。ありがとうございます。

○ 事務局

はい。ありがとうございます。

今回の見直しにおいて、この計画の中で、優良事例による事業的なものを紹介するコーナーを考えていますので、辻委員のおっしゃられたような地域特性を生かした保全活動や事業がございましたら、それも掲載を検討させていただきたいと考えております。

○ 渋谷部会長

それでは、佐藤委員さんからもし御意見等、これ直してもらったもので大丈夫かっていうことと、追加の意見をお願いできればと思います。

○ 佐藤委員

私の方から森林整備の方の関係で御意見させていただいたのですが、温暖化対策実行計画の見直しの中で検討されるということですので、そちらの方で、具体的な数字も含めながら、検討いただければと思います。

○ 渋谷部会長

まずは、全般的に大丈夫ですか。

はい。それでは、丹野委員お願いします。

○ 丹野委員

まずは私からの御意見のお答えをいただきました。

特に、追加していただいたところを修正していただくところに、異論はありません。

1点ですが、これは認識合わせなのですが、私の意見の方で、「IPCC第6次報告書の健康影響で触れられているように、環境と健康の両面から環境基本計画の見直しが必要だと考える」という意見に対して、それに対応する場所が38から39ページの、ところだというふうに、御回答いただいておりますが、これ多分、感染症や熱中症等の複合リスクについてということで、

38ページから39ページを見ると、その部分が該当するのかなと思うのですが、私が言っているのはどちらかというと、そのあとの、「環境にやさしく健康で心豊かな暮らしの実現」の方に当たるのではないかと考えています。

これは非常に重要な視点だと思うのですが、要するに環境を守りながら、健康を獲得するというのが、特にIPCCの第6次で明確に示されていると私は認識していますので、熱環境、気候変動によって感染症が増えるから感染症予防する、或いは、熱中症

が増えるから予防するというのは、確かに重要な視点なのですが、それだけではなくて、例えばここに挙げられている、自転車を利用して、二酸化炭素の削減と健康寿命を延伸するとかということがむしろ、この環境と健康の両面からとらえていると思いますので、文章を直す必要はないかと思いますが、その認識はお持ちいただいた方がいいのではないかなと思います。

防災・減災というよりは、環境づくりと健康づくりを、両方から考えここであと働き方改革、環境負荷の低減されておりますが、働き方改革などの数値の働き方改革っていうのは、ライフワークバランスですので、これも、健康づくりとか、ウェルビーイングに同じ繋がってくるということで、人側から見た視点っていうのが、重要だということだと思います。

なので、該当ページが 38 から 39 ではなくて、資料 3 でいうと 41 ページに当たる、そういう認識を持っていただくと良いのではないかと思います。

それからもう 1 つ、PFAS についての記述で難しかったところだと思います、ありがとうございます。これは、コメントです。先日、岩手日報に小さく載っていました。PFAS によりコレステロールがちょっと上がっていることは書いていたのですが、心筋梗塞のリスクを上げるっていう事実はない。

PFAS をゼロリスクに持っていくということ自体には反対はしませんけれども、それによる健康影響が過大に報道されるっていうことに関しては、非常に、懸念する部分ですので、健康影響については、注視しながら、情報発信していただければと思います。これはコメントでございます。以上です。

○ 渋谷部会長

はい。この認識の確認ということで、いかがでしょうか。

○ 吉田主任 事務局

はい。丹野委員御指摘のところ、2 番の方に掲載させていただいているという整理でございましたが、大きくは 3 番に関係するということで、事務局でも、内部的な検討をさせていただきました。

計画の建付けの中では、この計画の性質として再掲を設けていないところではございますが、丹野委員の御意見にある 3 番の「環境にやさしく健康で心豊かな暮らしの実現」というところにも関係するということにつきましては認識させていただいております。

なので、こちらにつきましてちょっと記載について、今の御指摘を反映できる場所がないかというのをちょっともう一度検討させていただきたいと思いますが、委員の御指摘については、こちらの方でもその通りだというふうに考えてございます。

もう 1 点、PFAS につきましては、委員の御指摘を反映させていただく形で、化学物

質が独り歩きしないような、書きぶりをさせていただくように、こちらの方でも反映させていただきましたので、今後もコメント頂戴することがあるかもしれませんが、記載についてはこのようなトーンで書いていきたいと考えてございます。以上でございます。

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございました。

私も横断的施策の、3の「環境に優しくて健康で豊かな暮らしの実現」というのは、まさにそのままウェルビーイングの世界なのですが、この中には書かれてないです。

やはり、丹野委員の御指摘はここもう少し、充実するほうがいいという気はしましたので、よろしくをお願いします。

○ 渋谷部会長

はい。伊藤委員、御意見等ありましたらよろしくお願いいいたします。

○ 伊藤委員

はい。よろしくをお願いします。

今回、新しい国の第六次環境計画で新しく盛り込まれるものだけを指摘するのかと思ったのですが、そうではないみたいですので、水環境について1つ発言させていただきたいと思います。資料3のですね、36 ページ目を示していただければと思います。

この一番上のところに「健全な水循環」というのがありまして、その一番下の方にその水インフラのところで、汚水処理ビジョンの記載があるのですが、実はこれ、今改定作業を行っております、地域の実情に合わせて下水道等の汚水処理施設の計画的な整備を促進すると。それを普及していくということが書かれています。

一方で、44 ページの方には、4 番の環境リスクの管理というところに、河川、湖沼・海域 BOD 等の環境基準達成率というのがありまして、98.2%というふうになっていて、一見これは高く見えるのですが、実際には、環境基準を満たしていないダム貯水池や、或いは環境基準を満たしてはいるものの類型的にちょっと低い B 類型、C 類型といったところもあります。これの全てがその原因ではないのですが、やはり一因として実日本では全国的にも 93%の汚水処理人口普及率になっているのに対し、岩手県はまだ 85%でということで、残り 2 割は、生活雑排水がそのまま川とかに流れているような、現状になっています。全体的に、そういった普及をもっと進めていく必要があるとは思いますが、一方でそういった水質環境基準が、満足されていないところや、水質の汚濁が残っているようなところは、やはり優先的に、そういった、下水道整備や浄化槽になど、水質がまだ改善されてない地域には、早期に優先的に整備していくような方向性をどこかに記載していただければなということ。ちょっと長くなりましたけども、

よろしくお願いいたします。

○ 渋谷会長

はい。ありがとうございました。いかがでしょうか。

○ 事務局

はい。御指摘ありがとうございます。

委員御指摘のところにつきましては現在、汚水処理ビジョンの改定の見直しも実施されているところがございます。こちらの記載と整合を図る必要があると考えています。検討の中で、関係部局と調整しながら、記載の方を検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○ 伊藤委員

はい、わかりましたよろしくお願いいたします。

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございました。続いて、小野寺委員、御意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。

○ 小野寺委員

そうですね3点ございまして、計画の中で、熱中症に関する対策等は、おそらく更新していないような気がするのですが、ここについて何か。必要性などはないでしょうかというところが、1点です。

最近の暑さは尋常ではないので、熱中症弱者に対する対応というところに関して、気になった部分として、新たに意見として追加させていただきます。

地域循環共生圏に関する、環境学習についてですが、環境学習センターの活動たくさんしてらっしゃる中でもなかなかやはり一般の方に対する周知というものはまだまだ弱いだらうなと思っております。

一方で、中学生の教科書だったような気がするのですが、岩手に関する授業があるのか、教科書で岩手県内の情報は網羅されていて非常に素晴らしいなと思って読んだ記憶があったのですが、そういった教科書の中にも、地域循環共生圏という考え方が載っているのかどうかというところをちょっと確認したいなと思っておりました。

見学にいらっしゃる高校生ぐらいになると、もうその辺がある程度知識として入ってきていらっしゃるので、そこから学べるだろうなと思うのですが、小中あたりでもその辺をしっかりと勉強の中で、盛り込んでいただければより一層良いのかなということでもありました。

あとこれはちょっと関係ないかもしれないのですが、最近、局地的な暴風雨ですとか、風の強さは大分強いなという気がしています。なんか亜熱帯化しているなということを感じているところです。

予報も必要なのですが、倒木による二次被害の措置について何か検討されていらっしゃるのかどうかというところが気になったところです。ここ1年ぐらいで近隣地区も含めた、倒木が相次いでいるということが気になったのと、実は弊社、1か月ほど前に、高圧線に松の木が倒れ、危うく切れる直前まで行かまして、それはこういう被害ってどんどん増えてくるのではないかと思って懸念しておりました。

以上3点です。

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございました。

○ 事務局

そうしましたら3点順番に、ご回答させていただきます。

1点目の熱中症対策の追記につきましては、現状、気候変動の適用に関する記載につきましては、資料3の38から39ページのところで記載させていただいてございます。

先ほど丹野委員から御指摘を頂戴したところと重複するところがございますが、こちらの方は、健康の分野ですとか、あとは各施策の気候変動に関するところを、関連するところではございますが、現状の建付けとしては、再掲等はない形だったので、こちらの方で、一手に御説明しているところでございます。

ただ、今回、委員の皆様から御意見を頂戴してございましたので、この熱中症対策も含めて、健康リスクの対応につきまして記載の箇所等については、持ち帰って検討させていただきたいと考えております。

続きまして、2点目につきましては、現状ちょっと事務局で、手元に材料ないところではございましたので、今後の事業の参考とさせていただきたいと考えております。

最後、倒木の防災のリスク、防災減災に関わるところでございますが、気候変動に伴う防災・減災というところは先ほど申し上げた、資料3の38、39ページに記載させていただいているところでございますが、この他にも、岩手県の国土強靱化の地域計画等、防災・減災の方に特化した計画も県の方で策定しており、見直しを予定しておりますが、そういったところとも整合を図りながら記載を検討して参りたいと思います。ありがとうございます。

○ 小野寺委員

はい。ありがとうございます。

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございました。それでは、委員の方から追加とか御意見等あればいただきたいと思うのですけれども、まず会場の方から、他の委員の皆様のお話プラスアルファで何かありますか。はい。お願いします。

○ 丹野委員

先ほどから事務局からの説明で気になっているのは、感染症や熱中症等は、防災・減災でいい、という点です。健康づくりというのは、今IPCCなどでもそうですし、その気候変動による健康影響は、熱中症や感染症だけではなくて、いわゆる循環器病ですね、脳卒中とか心筋梗塞とか、それから呼吸器疾患ですね。それからメンタルヘルスにまで及ぶということが指摘されておりますので、どちらかという、その熱によって、直接的に起こる健康影響ってということだけではなくて、人の健康っていうものを中心に、ここでは健康寿命の延伸という言葉が使われていますけれども、健康寿命の延伸ということを考えてときに、どういった環境づくりと結びつけるのかっていうことだと思いますので、感染症や熱中症を質の高い、生活の質を保つ健康のところに移して欲しいという意見ではなくて、全く別個のものや、別個ではないのですが、次元の違う話をしている、というところを御認識いただけると良いのではないかと思います。これは意見です。

○ 渋谷部会長

新しい記載を起こしてもいい。今までの範疇から少しずれてしまうかもしれませんが、記載を御検討いただければと思います。

○ 事務局

今の御意見についてですが、この環境基本計画は、一部健康対策に関する記載はあるのですが、今おっしゃられた丹野委員の御意見を深掘した記載となり、大分保健福祉的な知識、そういったものも大変必要になってくるのかなと考えられますので、この記載については検討させていただきたいと思います。

○ 辻委員

先ほど自然環境の身近な自然環境の形成ということでお話ししましたけれども、その中で伊藤委員の方からの水質の改善についてですね、類型区分もまだ低い部類もあるし、そういった細かい配慮に基づいた水質改善が重要である、という御意見いただきまして、それはもう私ももっともだと思いましたので、そこでちょっと補足させてください。

それに加えて、そういう側面で考えていくと、なんですけれども道路排水ですね、特にこちら冬季凍結防止剤、大量に使うわけですから、特に高速道路排水でそういう

影響が生物に対する影響が出るぐらいの道路排水も確認されつつあるか、まだ明確に言えないかもしれないのですが、そういうところも見えてきているわけですね。そうしたときに、生物に対する影響っていう側面で考えたときに、どちらの方の影響が大きいかなということだと考えると、後者もかなりの影響があることから、そういうものへの配慮ですね、その辺を明確に計画に書けるかどうか、計画に書くにはもう少し根拠が明確に求められるかと思しますので、書くことは難しいかもしれませんが、そういう側面もあるということをお伝えしておきたいなと思いました。

あともう1点ですけども防災、特に河川行政考えたときに、防災っていう側面が出てくるわけですけども、この報告書、この中に、基本計画の中にも、グリーンインフラであるとか Eco-DRR のお話とかも出てきていましたので、この辺りが単語としてポツと出てきている印象で、どのように取り組んでいるのかというところがちょっと見えていないと思います。

単語として表現するってことも、大事なかもしれませんが、どういうふうにこれを実現していくのかなというところが、ちょっと見えないなっていう印象がありますので、その点追加してお伝えしておきます。

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございました。他には。

○ 岩井委員

はい。下水とか、水質浄化ところとかに、関連あると思うのですが、除草剤、農薬利用特に根まで枯らしてしまう、かなり強力なものっていうのがあり毒劇物になるのになると思われま。農地、住宅、道路、河川いろいろな場所での利用が多くなっているようですが何年先にどういう影響があるのだとかの調査が必要ではないでしょうか。現在無害化していくような調整剤だとか、私は仕事の中で使ったのですが、150度の温度で温水を土にまくとすぐ枯れます。1ヶ月くらいで戻ってきますが。

農薬除草剤の影響、様々あると思いますが、有害であることについて記載を考えていただきたいです。(使用しても安全な物、そうでないものとの区別が必要ではないでしょうか。)

○ 渋谷部会長

はい。御検討いただければと思います。

○ 事務局

はい。今はいただいた御意見の中で、様々な環境リスク等に関する、ちょっと御意見も頂戴したところがございますけれども、PFAS の件にも関連しますが、多くの化学

物質において、様々な事例はあると思いますが、計画の方は、科学的知見に基づいて内容を反映するというような形にさせていただくので、今日いただいた御意見を承った上で、あとはそちらの方は、計画の方に実際に掲載するかにつきましては、他の計画とのバランスですとか、先ほど申し上げた科学的な知見等を踏まえ、今回は御意見として承りたいと思います。

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございました。

伊藤委員、小野寺委員いかがでしょうか。追加等何かございますか。

○ 伊藤委員

先ほど丹野先生からも気候変動のところで、お話が出たので、私の方からも、健康面ではなくて、水環境の面から、ちょっと1つ指摘させていただきたいと思うのですが、気候変動で気温が上昇してそれによって水温が上昇傾向にあるかと思います。

特に閉鎖性水域のダム湖ですとか、海域でアオコですとか、赤潮など、そういったものの発生リスクっていうのがより高まってくるのではないかというふうに考えています。

ですから、気候変動による水への影響に関しては、水害だけではなくて、そういった水質、特に内陸の場合ですと水道水源に使われているところもありますので、そういったところも少しコメント加えていただけたらなというふうに思います。以上です。

○ 渋谷部会長

はい。ありがとうございます。全体として何かございますか。

委員の皆様方は触れなかった点。私の方から何点か。まず、全体の流れなのですが、読んでいくと、最初の方ずっと流れてきて、計画策定以降5年前から今までの間の動きがまとめて書かれている。

そうすると、読んでいくとその項目が、最後にまとめて書かれているので、流れが切れてしまって、項目の中で完結しない。

ですから、計画は、全部リニューアルされて流れて改定されているような気がするのですが、ちょっとわかりにくいので、単純に後ろのものを既存の各項目の後ろにつけるといっただけなのですが、それと同時に、前の文を過去形にして、最新の情報もすぐ、既存の項目の中にわかるように振り分けてもらいたいです。

あと、実は国の方の方針が5年間変わっているのが、十分反映されてないなどが、ありました。例えば環境教育の方針が変わっているんで、それはもう少し、洗い直しをやっていただいて、反映してください。

それから、3R+Renewable が出てくるのですが、それまでリデュース、リユース、

リサイクルと、発生抑制、再利用、再生利用って書いてあり、最初だけ Renewable の意味として「再生可能な資源の活用」と書かれているのですが、以降、後ろの方に行くとも全部英語だけになっています。

そうなるとうまくわからないところがあったりするので、やっぱり県民の皆さんがすぐわかるようにしていただけると有難いです。

また、生物多様性のところで、実は他の分野にも関わりがあるのですが、それは抜け落ちていて、先ほど少しありましたが、災害とか防災の機能というのは、生物多様性の機能としてもということもあるので、そういったところに記載をしていく必要があると思ひまして、どこに入れるかというのは難しいのですが、直さなければいけないところもあるのかな、見直しをしていただければ、という気がしました。

他にも、アスベストの話だったのですが、計画策定以降に基準や指導すべき内容が変わってきている、事前調査しなければいけないなど、規定が変わっているはずなので。

ここで、一個一個やっていくわけにはいかないと思いますので、できましたらまた専門的な知見の中で、最新情報がちゃんと入っているかということ、委員の皆様方から、確認をしていただいて、直したところだけ、見ていてもわからないので、ちょっと時間が少ない対応なのですが、専門分野について、よく、見ていただければと思います。

○ 事務局

はい。今渋谷部会長からいろいろ御意見いただいた中で、第1章の文章、5年間で新しく変わったところの掲載の仕方や、3R+Renewable の書き方などについて、これ、どちらかというと国語的な話になりますので、ちょっと事務局の方でよりわかりやすい書き方を検討して修正・加筆していきたいなと考えております。

あとその他の点で、国の方針がまだ、ここが反映されていない、或いは制度が変わっているなどございましたら、お気づき次第ですね各委員の方々から情報提供いただければ、幸いかなと考えております。

私どもでも、今一度チェックをかける予定ではございますが、どうしても、見落とししてしまうところもあるかと思ひますので、お気づきの際はメールでも御意見いただければ大変有難く思ひます。よろしくお願ひいたします。

○ 渋谷部会長

いつ頃までに出せばよろしいでしょうか。

○ 事務局

最後、事務局の方からの御連絡で次回の部会の日程の御連絡を差し上げようとした

ところで、それに関連するのですが、そちらの方の日程調整票を7月31日目途に御連絡頂戴したいというところで、調整票の中に前回の部会と同様に、今回第2回部会で話しきれなかった御意見を書いていただくフォーマットを設けさせていただきますので、タイトな日程で恐縮ですが31日までに、日程併せてご連絡いただければと思っております。

○ 渋谷部会長

はい。少し忙しいですが、よろしく願いいたします。他にはいかがでしょうか。

結構たくさんあるので大変だとは思いますが、大方、前回の意見は、反映されたと思います。追加意見と新しい情報の反映が必要ですね。

伊藤委員さん、小野寺委員さん、何かございますか。

○ 伊藤委員

特にございません。

○ 小野寺委員

はい。ありがとうございます。大丈夫です。

○ 渋谷部会長

はい、ありがとうございます。それでは、本編の方、よろしいですかね。

それでは、議事の(2)のその他といたしまして、委員の皆様から何かありましたら。他にございませんか。事務局から何か。

○ 事務局

はい。先ほど御説明したところと重複するのですが、今回の御意見等を踏まえた答申素案の資料をお諮りする第3回の部会を、8月の最終週から9月の最初の週のところで調整させていただきたいと思っております。

タイトな日程で御回答いただくスパンも短く大変恐縮なのですが、先ほど申し上げたとおり、7月31日目途で日程調整票と今回の部会を踏まえた御意見、そちらの方一緒にお願いするものをメールで送らせていただきますので、御回答のほどよろしくお願いいたします。

○ 渋谷部会長

はい。では、他になければ、議事は以上をもちまして終了させていただきます。

御協力ありがとうございました。進行事務局へお返しいたします。

○ 事務局

はい。渋谷部会長ありがとうございました。そして各委員の皆様、本日はお忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。

以上で第2回環境基本計画中間見直し部会を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。